高等部解体班　作業学習　学習指導案（略案）

日　　時　令和８年 11 月６日金曜日
　　第２校時　10：20～11：10
場　　所　共通科目室
授 業 者　佐藤優悟（T1）山下倫大（T2）
　　早坂真琴（T3）

１　単元名　「現場実習をがんばろう」

２　単元のねらい

・働くことの意義を知り、自ら仕事に取り組む。（自ら学ぶ生徒）
・働くために必要な態度や技能を身につける。（社会性のある生徒）
・働く生活を通して自分の強みや弱みを知り、自分の進路について主体的に考える。（挑み、磨く生徒）

３　単元の指導計画（８７時間　本時８５／８７）

次	時数	学習活動	取り扱う教科等の内容	知・技	思・判・表	主
1次	2	○作業場所づくり ○仕事内容、目標等の確認	【国語】高１段階 ア言葉の特徴や使い方（カ） 【職業】高１段階 C産業現場等における実習 ア	○ ○		
2次	83	○手帳の解体 ○検品（報告・相談）	【国語】高１段階 ア言葉の特徴や使い方（イ） 【国語】高１段階 A聞くこと・話すこと エ 【数学】高１段階 C変化と関係 ア（イ）㋐ 【職業】高１段階 A職業生活 ア（ウ） 【職業】高１段階 A職業生活 イ職業（ア）㋔ 【職業】高１段階 A職業生活 イ職業（イ）㋐ 【職業】高１段階 C産業現場等における実習 ア	○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○
3次	2	○作業場所の片付け ○活動の振り返り	【国語】高１段階 B書くこと ア 【職業】高１段階 C産業現場等における実習 イ		○ ○	

４　本時について

（１）本時のねらい

やり方や手順を守り、正しく手帳の解体に取り組み続けることができる。（自ら学ぶ生徒）

（２）本時の学習活動・取り扱う教科等の内容

学習活動	取り扱う教科等の内容
○手帳の解体 **○検品（報告・相談）**	【国語】高１段階　ア言葉の特徴や使い方（イ）＜知・技＞ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話している。

	【国語】高１段階　Ａ聞くこと・話すこと　エ　＜思・判・表＞ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 【職業】高１段階　Ａ職業生活　イ職業（ア）　＜知・技＞ ㋓使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ㋔作業の確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業している。 【職業】高１段階　Ａ職業生活　イ職業（イ）　＜思・判・表＞ ㋐作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現している。

（３）　本時の個別の支援・手立て、評価の判断の基準、評価

	本時の個人目標	学習活動	評価の「判断の基準」 ▶支援・手立て
B	指示されたことを守りながら取り組むことができる。	手帳の解体	指示を正しく守りながら仕分けすることができる。 机にシートを貼り可視化し、指示を受けてその場で修正するように促す。
C	指示を受け入れて、教員と一緒に手帳の解体へ取り組むことができる。	手帳の解体	指示を受け入れて一緒に解体することができる。 口頭で指示をしたり、カード等を用いて視覚的に伝えたりする。座り込んだり、気持ちが落ち着かなかったりする時はクールダウンを促す。
D	やり方を守って、正しく仕分けすることができる。	手帳の解体	正しく仕分けることができる。 正しくカゴに仕分けられるように、机にシートを貼り可視化する。
K	決められた時間、取り組み続けることができる。	手帳の解体	時間内、取り組み続けることができる。 タイマーを活用し、作業時間を可視化する。
O	指示を受け入れて、正しい手順で解体することができる。	手帳の解体	指示を聞いて解体することができる。 途中で間違えている時は言葉がけをし、自ら修正するように促す。
P	気持ちの調整をしながら一緒に決めた活動へ取り組むことができる。	手帳の解体等	落ち着いて活動することができる。 一緒に活動内容を決定し、本人は納得できる活動を設定することで落ち着いて活動できるようにする。
W	決められた量の作業が終わるまで、取り組み続けることができる。	手帳の解体	決められた量を解体することができる。 仕事量を設定し、本人の見える位置に手帳を置いてその時間内で取り組む量を可視化する。

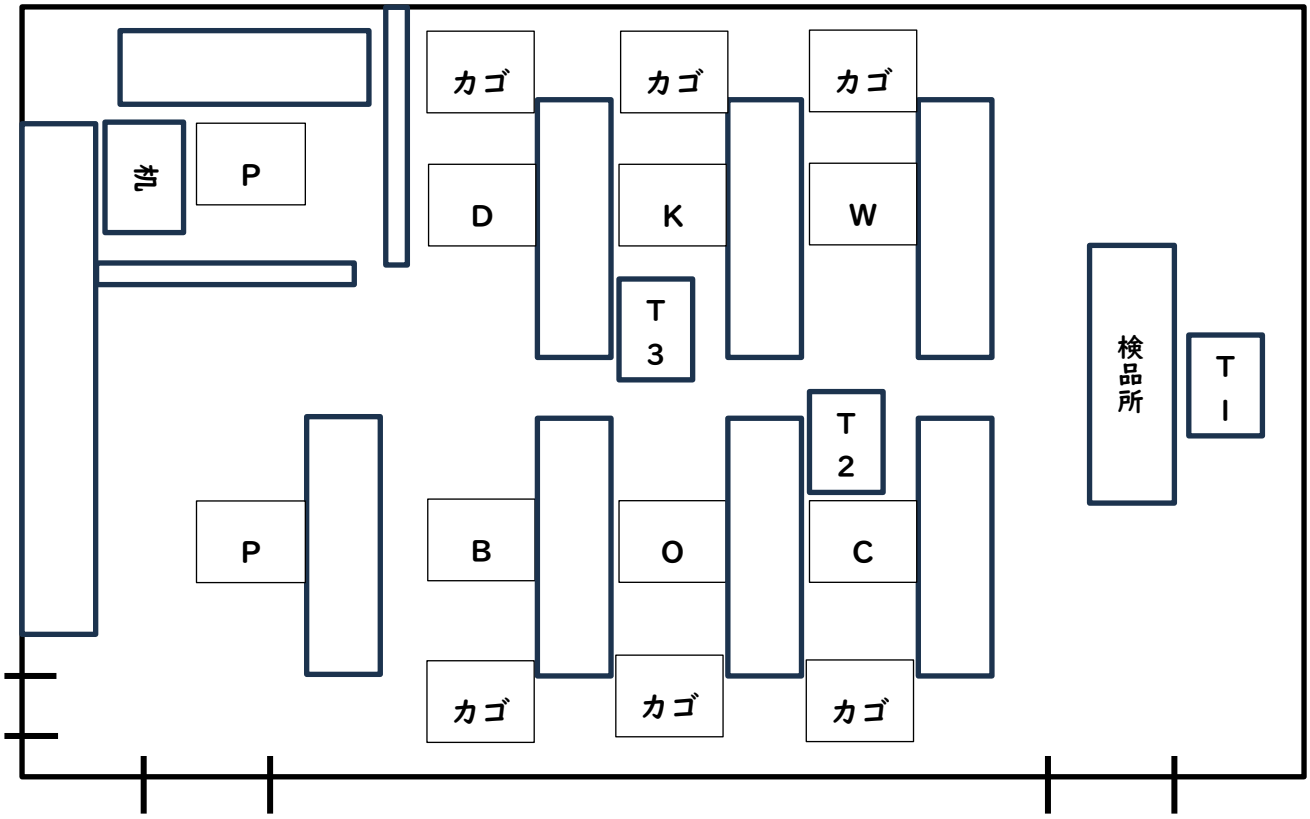
（４）　本時の展開

時間	学習活動	教員の動き（○）　支援（・）
５分	○挨拶（号令：生徒W） ○仕事、目標の確認 仕事内容：手帳の解体 全体目標：「つづける」「つたえる」「まもる」 個人目標：黒板に記載	○仕事内容・個別の目標を確認する（T1） ・Ｔ１の話を聞くように生徒C・K・Oを中心に注目するように促す(T2・3)

35分	○仕事を開始する ・解体に必要な道具を準備し、手帳を取りに来る。 ・iPadでラジオを流す。(生徒K) ＜解体の流れ＞ ①机のカゴを広げて手帳を取りに来る。1人10冊。 ②素材ごとに分別しながら手帳を解体する。 ③解体が終わったら解体した手帳を横のカゴに入れ、他の素材は検品所にカゴを持っていき、報告をして検品してもらう。 ④検品終了後新しい手帳を貰い解体に取り組む。 ①～④を繰り返す。 生徒B/C/D/K/O/P/W　判断の基準	○生徒Oを中心に見ながら解体の確認・検品を行う(T1) ○生徒Cを中心に見ながら解体の確認・検品を行う。(T2) ○生徒Kを中心に見ながら手帳の補充と解体の確認を行う。(T3) ・指定された場所へ正確に仕分けをするように、机にシートを置き、正確性を高める。(生徒Ｂ・Ｄ) ・間違えやすい素材をカゴの底に貼り付けることで確認しながら解体できるようにする。(生徒Ｃ・Ｏ) ・時間を見ながら続けて作業できるよう前方にタイマーを掲示する。(生徒Ｋ) ・取り組む量が明確に分かるよう、机の横に解体するべき手帳を置いておく。(生徒W) ・落ち着いて活動ができるよう作業環境の整備・活動内容のカード化・活動前の確認を行う。(生徒Ｐ)
5分	○片付け ・タイマーが「00：00」になったらタイムキーパー(生徒B)が全体に声をかけ、途中でも材料の返却・検品を行う。 ・使用した道具の清掃(カゴ・机の空拭き)、片付け(カゴを重ねて机の通路側に置く)	○検品を行い、片付けの仕方を確認しながら促す。(Ｔ１) ○カゴを拭いて机が拭けているかを確認しながら片付けを促す。(Ｔ２・３)
5分	○振り返り ・本時の個人目標の達成度を確認する。 ○挨拶（号令：生徒D）	○目標に対して達成したかどうかを個別に確認する。(T1) ・記録カードでミスなくできたかを確認したり、前に出てきてイラストで達成度を確認し貼れるようにする。

5　備考

＜配置図＞

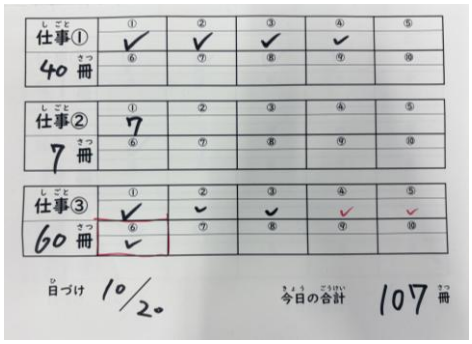


教材・教具

・解体シート



・記録カード



・貸し出しカード

